



市川レポート

順調な滑り出しとなった米企業決算

- 7-9月期決算の先陣を切った米金融大手6社はおおむね好調な決算となり株価はいずれも上昇。
- キャタピラーなどは利益が市場予想を下回ったが株価は上昇、マイクロソフトは好決算で株価上昇。
- 減益予想の7-9月期決算を乗り越えれば、その後の増益見通しに支えられ米株は堅調に推移か。

7-9月期決算の先陣を切った米金融大手6社はおおむね好調な決算となり株価はいずれも上昇

米国では、主要企業による7-9月期の決算発表が本格化しています。先陣を切ったのは、JPモルガン・チェース、シティグループ、ウェルズ・ファーゴ、ゴールドマン・サックス（決算発表は10月15日）で、バンク・オブ・アメリカ（同16日）、モルガン・スタンレー（同17日）が続きました。米金融大手6社の決算では、いずれも最終黒字が確保されました。

米銀の利ざや（貸出金利から預金金利を差し引いた値）悪化は懸念材料ですが、JPモルガン・チェース、シティグループ、バンク・オブ・アメリカ、モルガン・スタンレーの1株あたり利益が市場予想を上回るなど、全体としてはおおむね好調な決算となりました。株価についても、それぞれの決算発表日の前日から10月23日までの間、6社全てで上昇しています（図表1）。

【図表1：決算発表を終えた米主要企業の株価】

企業名	株価騰落率	企業名	株価騰落率
JPモルガン・チェース	7.45	ネットフリックス	-5.24
シティグループ	3.15	テキサス・インスツルメンツ	-7.48
ウェルズ・ファーゴ	3.37	キャタピラー	1.23
ゴールドマン・サックス	2.67	ポーイング	1.04
バンク・オブ・アメリカ	5.68	マイクロソフト	0.64
モルガン・スタンレー	7.29		

(注) 株価騰落率の単位は%。期間は決算発表日の前日から10月23日まで。ネットフリックスとテキサス・インスツルメンツのみ決算発表日から10月23日まで。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：米主要企業500社の純利益見通し】

業種	2019年見通し	2020年見通し
一般消費財	2.6%	13.5%
生活必需品	1.6%	6.4%
エネルギー	-25.9%	25.3%
金融	8.5%	5.0%
ヘルスケア	8.3%	9.5%
一般産業	-0.6%	15.5%
素材	-8.2%	16.2%
不動産	4.7%	6.3%
テクノロジー	-2.6%	12.0%
通信サービス	1.9%	13.0%
公益	4.3%	5.2%
S&P500	1.2%	10.8%

(注) 見通しは2019年10月23日時点の前年比伸び率。
(出所) リフィニティブの資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成



キャピラーなどは利益が市場予想を下回ったが株価は上昇、マイクロソフトは好決算で株価上昇

米動画配信大手のNetflixが、10月16日に発表した7-9月期決算では、世界の有料契約者数および1株あたり利益が市場予想を上回り、株価はいったん上昇しました。しかしながら、他社との競争激化の懸念が残り、その後は株価が低迷しています。また、米半導体大手のテキサス・インスツルメンツが、10月22日に発表した10-12月期の業績見通しは、市場予想を大きく下回り、株価は急落しました。

キャピラーとボーイングが10月23日に発表した7-9月期決算では、ともに1株あたり利益が市場予想を下回りましたが、キャピラーは需要に応じた減産措置が好感され、また、ボーイングは737MAXの年内運航認可への期待から、いずれも株価は上昇しました。マイクロソフトも同日、7-9月期の決算を発表しましたが、堅調なクラウドビジネスなどを背景に、売上高および1株あたり利益が市場予想を上回り、株価は上昇しました。

減益予想の7-9月期決算を乗り越えれば、その後の増益見通しに支えられ米株は堅調に推移か

調査会社リフィニティブが、S&P500種株価指数を構成する主要500社について決算状況を集計したところ、10月23日時点で124社が決算発表を終えました。このうち、売上高について、市場予想を上回った企業の割合は63%、下回った割合は37%でした。また、純利益について、市場予想を上回った企業の割合は82%、一致した割合は5%、下回った割合は13%でした。

米企業の7-9月期決算発表はまだ序盤戦ですが、順調な滑り出しといつてよいと思います。同四半期における主要500社の純利益は、前年同期比2.9%減となった後、10-12月期以降は増益に転じ、増益率は拡大していく見通しです。市場では、2019年通年の純利益は前年比1.2%増、2020年は同10.8%増が予想されています（図表2）。米国株は、減益予想の7-9月期決算を無難に乗り越えれば、その先の増益見通しに支えられ、底堅い推移が見込まれます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会